

遠野市農業委員会だより

遠野盆地

Tono-Bonchi

菊池 ^{まみ}真美さん (36歳)

遠野市上郷町

令和2年3月

No.29

東京の農業者大学校で3年間学んだ後、実家に戻り、花き栽培を引き継ぎました。現在は、ハウス11棟でトルコギキョウを中心に、葉ぼたんも栽培しています。

そのうち葉ぼたんは、12月をメインに予約をいただき、染色して「染葉ぼたん」としてお客様にお届けしています。

染葉ぼたんの良さを、もっとたくさんの人に知ってほしいと思っています。

皆さん、お花に興味を持ってみませんか！！



「令和2年度遠野市農業労賃標準額表」
を折り込んでいます。

染葉ぼたんに囲まれて

始まっています。大事な話し合い!!

地域農業マスタープラン（人・農地プラン）の見直し

地域農業マスタープランとは

「地域内の後継者がいない農地をどうするか」「経営を拡大したいのに周辺に農地が見つからない」などの農地や地域農業の課題を解決するため、地域での「話し合い」によって将来の農業方針や農地の活用を定めた計画のことをいいます。

なぜこの時期に見直すのか

全国的に農業の担い手不足や遊休農地の増大などの課題が増え、国では、地域農業マスタープランを令和2年度末までに見直すよう、全国の市町村に通知しました。

また、本市の地域農業マスタープランは平成25年2月に、旧市町村単位11地区で策定されました。毎年度、必要に応じて内容を見直していますが、策定から7年が経過し、この間に農業情勢が大きく変化したことから、計画の根本的な見直しが必要となつていきます。

市内の認定農業者数の推移

平成21年度 (平均年齢 54歳)	423人
平成25年度 (平均年齢 58歳)	379人
平成30年度 (平均年齢 61歳)	321人

「認定農業者」とは、農業経営改善計画の市町村認定を受けた一定の規模の農業経営者・農業法人で、農業の担い手として位置付けられています。

見直しに向けた作業の状況

農業委員・推進委員は話し合いのコーディネーター役として参加します。

プランの見直し完了
令和3年3月末

話し合い活動

令和2年2月～
令和3年3月上旬

現状の地図化作業

令和元年10月～令和2年3月
(市農林課で実施)

農家意向調査

平成31年2月～令和元年8月
(市農業委員会で実施)

話し合いの日程は市農林課から集落ごとにご案内をします。

話し合いの主な内容

ステップ1

地域の現状把握

- ・地図を活用した農地の現状把握
- ・地域の農業者の確認

ステップ2

地域の課題確認

- ・地域農業の課題の掘り起し
- ・課題解決の方針

ステップ3

将来の地域農業

- ・将来の担い手や営農の方針
- ・今後の農地の活用方法

話し合いは、1集落3回程度の開催を予定

話し合いの集落（全41集落）

プラン地区名	話し合い集落数	話し合い集落名
1 遠野	1	①遠野町（12・13区を除く）
2 綾織	3	①新里・寒風 ②綾織 ③和野・向
3 小友	5	①小友1区 ②小友2区 ③小友3区 ④小友4区 ⑤小友5区
4 附馬牛	2	①附馬牛（荒屋地区以外） ②荒屋（附馬牛4区荒屋地区）
5 松崎	5	①駒木 ②松崎 ③光興寺 ④八幡・新張 ⑤早瀬（遠野12区・13区・松崎4区の一部）
6 土淵	4	①栃内・山口 ②こがらせ農産 ③似田貝 ④飯豊
7 青笹	5	①沢田 ②上糠前・善応寺 ③中下・赤羽根 ④青笹6区 ⑤中沢
8 上郷	7	①かみごう農産 ②細越 ③佐比内 ④板沢 ⑤平倉 ⑥平野原 ⑦来内
9 宮守	1	①宮守1区～7区
10 達曾部	5	①湯屋・宿 ②米田・鋳物 ③大川目・中野 ④中斉 ⑤白石・湧水
11 鱒沢	3	①上鱒沢 ②下鱒沢 ③迷岡

※話し合いの集落名は、国へ届出している集落名であり、実際の集落名と異なる場合があります。

地域農業の課題を掘り起こし、概ね5年後の「地域農業を支える農業者は誰なのか」「どのように農地を活用していくのか」など、将来の地域農業について、皆さんで話し合いましょう。地域の担い手の方はもちろん、将来、農地の耕作が難しくなる農家の皆さん、ぜひ話し合いにお越しください。

遠野市賃借料情報

平成31年1月から令和元年12月までに締結(公告)された賃貸借における賃貸料水準(10アール当たり)は以下のとおりとなっています。

1 田(水稻)の部

地域名	平均値	最高値	最低値	賃借件数	備考	
遠野	7,100円	9,400円	4,800円	2	※昨年度値	
綾織	9,300円	11,100円	5,000円	36		
小友	8,400円	14,100円	3,600円	17		
附馬牛	4,200円	6,100円	1,800円	10		
松崎	7,800円	11,900円	3,000円	23		
土淵	5,500円	6,800円	5,000円	16		
青笹	6,600円	10,700円	4,900円	17		
上郷	5,900円	8,000円	3,000円	18		
宮守	5,500円	9,800円	3,500円	16		
参考 遠野市全域	現金支給	7,200円	-	-	154	
	物納支給	34kg	60kg	15kg	41	玄米

2 畑の部

地域名	作付品目	平均値	最高値	最低値	賃借件数	備考
遠野市全域	普通畑	6,700円	7,500円	6,500円	5	
	ホップ	7,800円	10,000円	5,500円	7	
	牧草	1,800円	3,000円	1,300円	9	

- 金額は10アール当たりの賃借料で、算出結果を四捨五入して100円単位としています。
- 「参考遠野市全域」の平均値は、各地域の平均値(四捨五入前)を賃借件数により加重平均した値です。
- 賃借件数には使用貸借(現金・現物のやり取りなし)は含まれていません。
- ※遠野地域については、令和元年度における賃借が無いため、平成31年3月の公表値です。

チェック

忘れていませんか？相続登記！

農地の貸し借りや売買の際に、相続登記が済んでいないと支障が生じる場合があります。また、相続登記とは別に、相続等により農地の権利を取得した方は、権利を取得したことを知った日から概ね10カ月以内に農業委員会へ届け出が必要です。



農業者の視点でお届けします
購読料は月700円です。月4回毎週金曜日に郵送で届きます。お申し込みは各地区の農業委員・農地利用最適化推進委員又は農業委員会事務局までお願いします。

農業者年金で安心して豊かな老後を！

農業者年金加入の要件…次の3つの要件を満たす方はどなたでも加入できます。

- ・国民年金第1号被保険者
- ・年間60日以上農業に従事
- ・60歳未満



農業者年金の3つのメリット

メリット 1
女性に優しい

- 奥様も単独で入れます。
- 女性農業者の長い老後をしっかりサポートします。
- 女性農業者の老後の安心は自分で確保
- 家族経営協定をすれば保険料補助も可能

メリット 2
若年層には手厚い政策支援(保険料補助)

- 農業者年金の加入要件に加え、
- 39歳までに加入
 - 農業所得が900万円以下
 - 認定農業者で青色申告者を満たせば、国の保険料補助が受けられます。

メリット 3
税制面で大きな優遇

- 支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象となります。

農地の売買・貸借・農地転用等各種申請の受付締切は、毎月10日です。(10日が休日の場合は翌開庁日)

市内の農事組合法人紹介

経営理念は「みんなで田園（たんぼ）を守りたい（隊）」

農事組合法人 遠野こがらせ農産

【組織の概要】

代表者 立花利夫
農家数 185戸
経営面積 144.8 ha
主要作物 水稲 87.8ha、大豆 35.9ha、
WCS 5.3ha、飼料作物 7.5ha、
ピーマン 0.4ha
オペレーター 6名



土淵小学校の児童たちと昔ながらの田んぼ作業

●設立の経緯

小区画の荒廃農地、担い手不足の解消と効率的な営農を目指して、平成7年から地区の農家が集まって基盤整備事業に向けた話し合いを開始。平成11年度に事業採択後、営農強化を目指して検討を重ね、平成14年度に農地利用調整組織として「土淵地区営農組合」と、担い手生産組織「こがらせ会」を設立しました。平成19年度には、この2つの組織



を統合、平成25年度に組織強化を図るため185戸が出資して、農事組合法人「こがらせ農産」を設立しました。

●取組の概要

法人化後は毎月役員定例会を行い、水稲と大豆をローテーションで作付けし、令和元年度の大豆収量は県平均を大幅に上回る10a当たり253Kgと高い収益を得ています。また、平成28年度からピーマンの生産を開始し、更に本年度はハウス5棟を導入してハウスピーマンに取り組み、地域の女性や高齢者の収益向上と雇用創出に貢献しています。

●地域との連携・「東北農政局長賞」受賞

地域住民を対象に、毎年、収穫祭を開催。（一社）遠野みらい創りカレッジと連携した地域活性化、地域の小学生や都市学生の農業体験の受け入れを積極的に行っています。昨年度は、本県で唯一、東北農政局土地改良事業地区営農推進功労者表彰の東北農政局長賞に選ばれました。

農業委員ひろし

農地専門委員会

委員長 佐々木 義弘

「農業・農地の未来を皆さんで考えてみませんか」

農業耕作者の高齢化や担い手減少が懸念されている中、農業委員では各地区の農業委員・農地利用最適化推進委員が3年計画で重点的に農地パトロールを実施しています。その結果、特に中山間地域での遊休農地・耕作放棄地が各所で多く見受けられます。

このような状況を改善するため5年後・10年後の地域の農業、農地をどのようにして守っていくのかを考えなければなりません。その手段として「地域農業マスタープランの検討会」での話し合いがあります。

マスタープランの検討会は遠野市では平成25年から、市内の11地区で、認定農業者・農家組合長・担い手を中心として実施されてきました。今回、令和3年3月完成を目指し、これから市内の41集落でマスタープラン見直しの話し合いが行われます。話し合いは、各集落3回ずつ開催される予定となっています。

第1回の話し合いでは、農業委

員会で昨年実施した農家意向調査の結果に基づき、各集落の農業の現状把握等を行っています。小友町山谷地区が市内で最初の開催でしたが、農家組合の呼びかけで多数の方に出席していただきました。

今後も各地で多数の方々に参加していただき、地域の農業の未来図を話し合っていたいただきたいと思います。



編集後記



「遠野盆地」No.29をお届けいたします。表紙には市内の意欲のある農業担い手の方々を紹介し、また、記事については、皆様に役立つ情報は何かなどを考えながら編集しています。

ご意見、要望、感想等を寄せていただければ幸いです。

今年は水不足や台風が心配されますが、災害のない実り多き年でありますように祈ります。

(編集委員 多田 登)